

とっても大切!!

舞台を支える裏方スタッフ

演出家

脚本や台本をもとに、キャストの演技をはじめ、照明・音響などの効果や装置・美術などを利用して、作品全体を創り上げる役割を担います。

大道具

舞台上に組み立てられたセットや書き割りなど大掛かりな舞台装置を建て込んで管理します。樹木や街灯、幕も大道具になります。

音響

基本的に総て生音ですが、演出の一環として使われる効果音や音楽などの音響効果を場面に合わせて流したり、オーケストラピットの音を拾って、舞台上に補助的に流したりすることもあります。

衣裳

本番でキャストが着用する衣裳を準備します。楽屋に洗濯機を持ち込んで洗濯をしたりアイロンをかけたり、ほつれたりすればそれを直したりミシンをかけたりもします。

字幕

キャストのセリフや歌声、その一つひとつに合わせて、楽譜を手元に置いて音楽を聴き、動きを見ながら、字幕を表示させます。

小道具

大道具以外の細々した物、道具や器具を指す言葉です。家具・細かい飾り道具・こわれ物・消え物（舞台で使う飲食物）などを手掛けて管理します。キャストが触れるものを小道具とすることもあります。

綱元(つなもと)

舞台の天井には、舞台の幅いっぱいに幕、道具、照明を吊るためのバトン（長い鉄管）があり、それぞれのシーンによって昇降させます。バトンは大きなおもりと太いロープで支えられていて、人力で操作する場合は綱元と呼ばれる担当者がその作業を行います。休憩中に次の場面に備えて幕などの吊り替えをしたりもします。

メイク

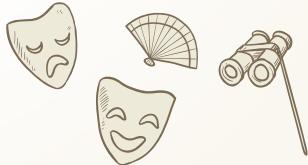
キャストの化粧のほか、ヘアメイクも手がけことがあります。キャストのキャラクターを決めたり際立たせたりする大切な役割です。

ケータリング

楽屋で全スタッフ分の食事を用意したり、コーヒーなどの飲料やお菓子などを販売します。公演数やスタッフの人数、作業予定や出入りの時間など、細かな把握が必要になります。

照明

舞台の空間演出照明を全般担当します。演出家などの指示を元に焦点や明るさを決めたり、何百ものきっかけ（Cue:キュー）に合わせて様々な場面を光で表現します。



プラハ国立劇場オペラとは

「フィガロの結婚」は、このプラハ国立劇場でモーツアルト自身の指揮により上演されています。公演は空前の大ヒットを記録し、多くのプラハ市民がこの作品を楽しみました。劇場主がその好評ぶりをみて依頼した新作が「ダン・ジョヴァンニ」。そんな逸話をもつ、歴史ある劇場です。モーツアルトを愛したプラハ、プラハを愛したモーツアルト。モーツアルトとこのプラハ国立劇場は、深い縁に結ばれた、歴史ある関係なのです。映画『アマデウス』の撮影でもこの劇場が使われました。



育☆育プロジェクト

第36回 結婚クラシックフェスティバル

プラハ国立劇場オペラ

モーツアルト作曲
歌劇

フィガロの結婚

2019年1/12(土)

日本特殊陶業市民会館フォレストホール



これで完ペキ!!

歌劇「フィガロの結婚」を知る!



第36回
名古屋クラシックフェスティバル
プラハ国立劇場オペラ

モーツアルト作曲
歌劇 フィガロの結婚

これで完ペキ!! 歌劇「フィガロの

物語

【第1幕】フィガロの婚約者を狙う伯爵!

時は18世紀、舞台はスペイン、セヴィリヤのアルママイーヴァ伯爵の館。伯爵の従者フィガロと、同じく伯爵家の女中スザンナの結婚式当日の話です。フィガロはスザンナから驚きの事実を聞きます。それは、二人の主人である伯爵が、手先の音楽教師バジリオを使って、スザンナを誘惑しているということです。フィガロは怒って、伯爵をこらしめる作戦を考えます。

【第2幕】伯爵の行動を暴こうとする作戦決行!しかし…

その作戦とは、伯爵に仕える少年ケルビーノにスザンナの服を着せて、伯爵がスザンナと夜こっそり会おうとしたときに、彼を差し向けて驚かせようというものです。事情を知った伯爵夫人の協力のもと、スザンナが少年ケルビーノに女装をさせます。そこへ急に伯爵が現れて大混乱。結局、妃ガロの作戦は失敗します。

フィガロの結婚、危うし!

その上、フィガロにお金を貸していた女中マルチエーナおば様が、弁護人パルトロといっしょにやって来て、「借金を返さないなら、フィガロは私と結婚する約束だったわ」と言い出します。フィガロとスザンナの結婚のゆくえはわからなくなりました。

【第3幕】意外な事実が発覚!

ところが大変な事実が発覚します。捨て子だったフィガロ、実は、マルチェリーナおば様と弁護人パルトロの二人が若かりし頃、恋の火遊びをした結果、できてしまった子供だったのでです。つまり、父母、息子の関係でした。この3人にスザンナを加えた4人はすっかり意気投合。無事、フィガロとスザンナは結婚式を挙げることができました。

懲りない伯爵にもう一度作戦決行!

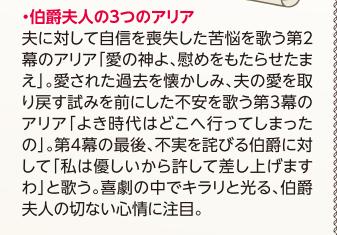
さて、一方の伯爵は「…まだ懲りずにスザンナを誘惑しようとしています。見かねた伯爵夫人は、今度は自分がスザンナの服を着て、密会の現場に行くことを決心します。

【第4幕】今度は大成功!でも伯爵夫人、それでいいの??

その夜、屋敷の裏庭。伯爵は、スザンナと秘かに会えるのを楽しみにやってきます。そして、スザンナの服を着た伯爵夫人をスザンナと勘違いして、甘い言葉をささやくのです。これで証拠は押さえられました。伯爵夫人は何も知らない伯爵に正体を明かします。スザンナと思って近寄った伯爵は、実はそれが自分の妻だったことを知つて驚きます。深く反省した伯爵のことを、夫人は温かく許してあげたのです。

CHECK IT! 劇中の有名曲

- ・**序曲**
モーツアルトのオペラ序曲の中で最も有名なエリガントでありながら華やかな曲調で、コンサートなどで単独で演奏されることも多い名曲です。
 - ・**フィガロのアリア**「もう飛ばまいぞこの蝶々」
恋に恋する春期大爆発のケルビーノのことを蝶々に例えてフィガロが歌う名アリア。伯爵により軍隊に入れられそうになるケルビーノを、フィガロがからかい半分に励します。
 - ・**ケルビーノのアリア**
「恋とはどんなものかしら」
純真と見せかけて実はなかなか曲者のケルビーノが、憧れの伯爵夫人の前で、自作のラブソングをスザンナの伴奏で歌うアリアです。
恋多き少年の揺れ動く心を、「恋がどんなものが、どうか教えてください」と歌います。



オペラを
楽しむために!
マナーを守ろう!



ここに注目!!

【何度観ても楽しい、究極の恋愛ドタバタ喜劇】

このオペラは、いたる所に「笑い」が仕込まれ、いくつかの伏線もある緻密なドラマ。いろいろな登場人物の視点から物語を追ってみるとまた違ったオペラに見えてくるので、何度観ても新しい発見に驚かされます。そしてこの物語はフランスの劇作家ボーマルシェのフィガロ三部作の第二部、ロッシー二作曲のオペラ「セビリヤの理髪師」の続編にあたります。

【天才モーツアルトの音楽】

「フィガロの結婚」モーツアルトが30歳の頃に作曲したオペラで、彼のオペラの中でも屈指の人気作品。有名な序曲、数々の美しいアリアなど、このオペラはモーツアルトのすばらしい音楽であふれ、どの曲もとても軽やかで生命力のある音楽です。

【誰もが気になる!ケルビーノは男?女?】

少年の役なので、声の高いソプラノ／メゾ・ソプラノの女性が演じます。ズボンをはいて男装して演じるので、こうした役を「ズボン役」といいます。物語でケルビーンは女装する場面があるのですが、女性歌手が男役として演技をし、女装して女役の演技をする。。。ちょっと気になる少年ケルビーノです。

複雑な人間関係も これでスッキリ「フィガロの結婚」の相関図

